

=====  
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の  
皆様にお送りしております。  
=====



◆ NEE Mail Magazine 127号 ◆

-----2019-8-1◆◇

葉月の8月です。

旧暦8月には木々の葉がおちはじめるといって葉月だそうです。関東では梅雨明け宣言が出される前に夏休みが始まりました。日照不足なのか散り始める木もあり、言葉通りの8月になりそうです。

今月は、ネットワークでは一番大きなイベントである「夏休み経済教室」が始まります。専門家の講演や講義だけでなく、日頃の部会活動のなかで深められた実践報告など他の教室にはないプログラムが組まれています。はっきりしない天気を打ち破るような熱い学びが期待されます。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

---

#### 【今月の内容】

##### 【1】最新活動報告

19年6月から7月の活動やニュースを報告します。

##### 【2】定例部会のご案内・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

##### 【3】授業のヒント「SDGsと探究活動」

---

【ご案内】「夏休み経済教室」が始まります。

---

今夏の、東京証券取引所(日本取引所グループ)との共済「先生のための夏休み経済教室」が8月5日から始まります。

東京証券取引所のウェブでの案内は以下の通りです。まだ申し込みは間に合いますので、知り合いの先生方に一言お声をおかけください。

- ・大阪会場：8月5日・6日(国民會館)
- ・東京高校向け会場：8月8日・9日(東証ホール)
- ・東京中学向け会場：8月19日・20日(東証ホール)

なお、7月29日現在の申し込み状況は以下の通りです。

- ・大阪会場 1日目 86名、2日目 70名
- ・東京高校 1日目 167名、2日目 165名
- ・東京中学 1日目 147名、2日目 145名

---

## 【 1 】最新活動報告

---

■大阪部会 (No.64)が開催されました。

日時:2019年6月29日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

内容の概略:参加者 18名。

(1)篠原総一代表(同志社大学名誉教授)から、「先生のための夏休み経済教室」の趣旨説明と協力依頼がありました。また、経済教育ネットワークのホームページを大幅に更新する予定であることと、実践教材のページを充実させる方針であることが述べられました。

(2)岡部ちはる氏(東京証券取引所)から、夏の経済教室の参加申込状況、教材「会社を知ろう! 会社を応援しよう!」の実践が広がっていることが報告されました。

(3)佐藤央隆先生(名古屋市立はとり中学校)より、「歴史から公民を見通す金融の授業~貨幣・金融史 から経済のしくみを考える~」が報告されました。中学、高校の歴史的分野の教科書から、貨幣・金融に関する箇所を抜き出し、それらを授業の中で公民につなげることを試みた実践で、夏の経済教室で一部が報告される予定です。

(4)下村和平先生(京都府立山城高等学校)から、夏の経済教室のプログラムの「新テストを視点として授業改善を考える~入試問題を授業にどう活かすか~」と題した報告がありました。

(5)安野雄一先生(大阪市立東三国小学校)から、「金融教育「未来の運用の仕方を考えよう」~小学校における価値判断・意思決定力を育む学びを通して~」という実践報告がありました。小学校6年生の生徒に、預金、株式、為替レートなどの経済知識をもたせ、自ら資産運用を判断させ、それらと経済全体との関係を理解させようとしたもので、単なる投資教育でなく、多面的・多角的な視点を養う授業構成となっていることが評価されました。

(6)奥田修一郎先生(大阪教育大学等)から「新しい働き方をめざして」と題する報告がありました。長時間労働の是正、女性が活躍しやすい労働環境の作り方、正規と非正規の格差問題、外国人労働、AI時代の柔軟な働き方、などをテーマに授業案が作られており、そのうち外国人労働について、前回の大阪部会で配られた「アリンコ国の外国人労働問題」があらためて紹介されました。

(7)山本雅康先生(奈良学園中学高校)は、夏の経済教室で「大学入試共通テスト試行問題などの入試問題を使って思考力判断力表現力を身につける授業の実践」

の報告が予定されており、主要部は前回の大阪部会で報告されています。今回は、それに追加して、授業で使った新テスト問題が紹介されました。

部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka64report.pdf>

---

## 【 2 】定例部会のご案内・情報紹介

---

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■東京部会(No.111)を開催します

日時:2019年9月21日(土) 14時00分~17時00分 (今回は土曜昼間の開催です)

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 446 会議室

■大阪部会(No.65)を開催します

日時:2019年9月28日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト(予定)

■札幌部会(No.21)を開催します

日時:2019年10月5日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム

札幌市中央区北5条西5丁目7 Sapporo55ビル5階

<関連団体のイベント紹介です>

■金融広報中央委員会主催 「先生のための金融教育セミナー」(既報)

日時:2019年8月9日(金)(小・中学校向け)

8月19日(月)(高等学校向け)

■金融広報中央委員会主催 「金融教育に関する小論文・実践報告コンクール」(既報)

全国の教員や教職を目指す大学生等を対象とする「金融教育」に関する小論文・実践報告を募集中です。

中学生、高校生等対象の作文・小論文コンクールも同時募集中です。

---

## 【 3 】授業のヒント 「SDGsと探究活動」

---

「SDGsを知っていますか?」という質問を受けたら、先生たちは「もちろん」

と答える方がお多いでしょう。

では「、具体的にどんな内容ですか？」と聞いたら「うーん」となるかもしれません。今回はそんな SDGsを巡るお話しを。

#### (1)30・10 運動

先日、出校している大学の非常勤講師の懇談会に参加した時に、主催者のスピーチに 30・10(さんまる・いちまる)でゆきましようという話がありました。

30・10 運動は長野県松本市からはじまった食品ロスをなくすための取り組みです。宴会などで、最初の 30 分は一生懸命食べる、そのあと懇談、そして最後の 10 分には残さず食べる。余ったらドギーバックなどで持ち帰ろう、という運動です。

その大学では全学で SDGsに取り組んでいて、その一環でのスピーチだったようです。

実際に観察してみたら、たしかに最後は残さずに終わりました。素晴らしい結果だと感心して帰宅しましたが、出席者に対して用意した食べ物が少ないという希少性の世界の結果だったからかもしれません。

同じ大学で、教育学科のゼミ生が、3my(myはし、myバック、myボトル)を実践していますかというアンケートも昼休みにとっていて、全学的な取り組みが浸透していることがわかりました。

#### (2)あらためて SDGsについて

SDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)は、2001 年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標のことです。

全部で 17 の目標と 169 のターゲットからなります。

17 の目標は、①貧困をなくそう、②飢餓をゼロに、③すべての人に健康と福祉を、④質の高い教育をみんなに、⑤ジェンダー平等を実現しよう、⑥安全な水とトイレを世界中に、⑦エネルギーをみんなに、⑧働きがいも経済成長も、⑨産業と技術革新の基盤をつくろう、⑩人や国の不平等をなくそう、⑪住み続けられる町づくりを、⑫作る責任使う責任、⑬気候変動に具体的な対策を、⑭海の豊かさを守ろう、⑮陸の豊かさも守ろう、⑯平和と公正をすべての人に、⑰パートナーシップで目標を達成しよう、です。

日本では、政府が音頭をとり企業も巻き込んで取り組みが進んでいます。また、教育の世界でも、学校教育のあらゆる面で取り組みがはじまっていますが、具体的にどんな形で取り組むべきかに関しては温度差があるようです。

### (3)探究学習の落とし穴

17の目標は、途上国がメインのテーマ、先進国も含めた全体のテーマ、広いテーマ、具体的な課題が明確なテーマなど、テーマにレベルや対策の違いがあつてなかなか焦点化しにくいところがあります。

とはいえ、現代世界の課題が列挙されていることは間違いないので、新科目「公共」では、内容のCに「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」というタイトルが付いているように、教科のなかでも探究学習のテーマとして取り上げるにふさわしいものと言えるでしょう。

その際、注意をしたいのは、しっかりしたリサーチの必要性です。

例えば、先にあげた大学生の3my運動のちらしには、⑮陸の豊かさを守ろうに関連させて、割り箸をへらしてmyはしを持参しようというスローガンと、割り箸は森林破壊につながるという文言が書かれています。

輸入はしを考えるとたしかにそれは言えるのですが、国内産のはしに関しては必ずしもそうとは言えなさそうです。

割り箸論争というのが1990年代にあり、当時、東京のある私立中学校の生徒たちが「わり研(割り箸研究会)」というサークルを作り、生産地までかけて国産割り箸は森林破壊ではないというレポートを書き、それが話題になったことがあります。

大学生諸君が、現在の割り箸の生産、流通の実態をどこまでリサーチをしてチラシに書いたか、聞いてみたい気になりました。

### (4)批判的思考のリトマス試験紙に

SDGsのような世界的、また国策的な運動を探究テーマにする場合は、ちょっと待てよの精神と、しっかりした事実を集めてゆくこと、それもできるだけ多様なものをあげて吟味することが求められています。

そして、一つの政策には利害がからみ、意図せざる結果が生じることを発見させるような示唆が必要になります。

そういった配慮がないと、自分たちは良いことをやっているのだという「正義」のスローガンが一人歩きをするおそれも出てくることをこころしいものです。

ちなみに、30・10の話の後日別の懇親会で話しました。

その結果、食べ残しをださない努力をして、みなきれいに平らげましたが、逆に私の胃袋は一杯になり、翌日まで響きました。

まさに意図せざる結果が生じたわけです。(新井)

---

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

---

7月の参議院選挙、18歳・19歳投票率31%という数字にちょっと愕然としました。もう一つの注目は、れいわとN国の当選です。これらの動きがこれからの政治にどう波及するか、世界の動向とも合わせて注目しなければと思っています。

(新井)

---

=====  
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより  
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

---



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

————— (C) Network for Economic Education ◆◇